

震災時における私達の心掛け

さる2月10日(日)本校において、避難所立ち上げ訓練が行われました。

各町会長、地域の方々を中心に、100名近い参加があり、防災に対する関心の高さがうかがわれました。新宿区からは、この地域を担当する笹筥町出張所と本庁の防災課、市谷小学校勝沼校長先生、本校赤沼校長先生、久保副校長先生、主事室を代表して佐々木が参加しました。

当日は、仮設トイレの組み立て、発電機を使った炊き出し用の釜のセッティング、中庭に移動になった備蓄倉庫の見学、校庭の仮設トイレ設置場所の確認、またNTTの方による「災害用伝言ダイヤル171」の説明、災害用備蓄品の斡旋案内などが行われ、限られた時間の中ではありましたが充実した内容となりました。

そして、日本赤十字社の方に、災害に対して私達が、どのような心掛けを持ってどんな準備をしなくてはならないのか、講演をいただいたので御紹介させていただきます。



①絶対に怪我をしてはならない

震災発生時に怪我をしてしまうと、他者や家族を助けられないばかりか、周りの人みんなに迷惑をかけてしまいます。

<怪我をしない為の家庭での準備>

- ・タンス、家具類は固定する
- ・開き戸は、耐震ラッチなどを取り付ける。(食器など割れやすい物が入っている棚は特に注意する)
- ・ガラス戸には、飛散防止フィルムを貼る

②避難所には、なるべく入らない

避難所での生活は、プライバシーに配慮している余裕もなく、精神的にとっても過酷な状況におかれています。住まいが倒壊していないのであれば、自宅に留まって食料の配給だけを受けるよう準備をしましょう。(新宿区では、在宅者向けの配給物資を区の備蓄倉庫に用意しており、今後、各地域に分配する予定です。)

<自宅に留まる為の準備>

- ・10日分の飲料水、生活用水、食料
- ・トイレの用品(最近では、既存のトイレに設置して、水を使わずにゴミ袋に貯めておくタイプのものなどがあります)
- ・その他、最低10日間分の備蓄品が必要です。



③震災時、だれが助けてくれるの？

- 自助(自分の事は自分でこなう)
- 共助(地域の方と協力して助け合う)
- 公助(役所、警察、消防、日赤などの援助)

<震災時の割合はどれくらいでしょうか？>

自助2割、共助3割、公助5割??

いえいえ、実際は、

自助7割、共助2割、

そして公助は1割にも満たないそうです。

支援に頼らない日頃の備えが重要なのは言うまでもありません。

④震災時の病人、怪我人の救出ルール

震災時には、病院も被災してしまう可能性が高く、稼働している病院に患者が殺到します。

通常時と違い、

より大勢の命を救う事が優先され、その目的に則した医療行為が行われる事になります。

料理食文化部「手作りみそ体験」を見学させていただきました！



①大豆を柔らかくなるまで煮ます。国産の良質な大豆は、そのまま食べても甘い！（顧問は、食文化の伝道師 染矢先生）



面白い！味噌って自分で作れるのだ！こんな感想を持った、楽しい部活動。その工程を御紹介します。

②煮あがった大豆を、マッシャーで丁寧につぶします。一粒も無駄にしない様にと、真剣な部員達。



③麴と塩を混ぜ込みます。染矢先生の手取り足取りの熱心な指導に「あのく先生、エプロンが、落ちてきちゃうんですけど〜」



④麴と大豆を合わせてます。「ちゃんと2等分するんだぞ」励まし合う部員。



⑤空気を抜きながらの味噌団子づくり「この団子さばきを見よ！」



⑥樽に詰めて重石をして、発酵を待ちます。カビない様に、塩・ラップ等で処理。どんな味噌ができるか楽しみです。



★最後は大豆汁の一気に飲み★
真剣に取り組みながらも和気あいの料理食文化部でした。